

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	岸野 恭平
論文担当者	主査 若林 一郎
	副査 小柴 賢洋
	副査 山門 亨一郎
学位論文名	Association of an Overhydrated State With the Liver Fibrosis and Prognosis of Cirrhotic Patients (浮腫と肝線維化および肝硬変予後との関連)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>バイオインピーダンス分析 (BIA: bioimpedance analysis) 法では体組成に関する様々な計測を行うことができ、なかでも筋肉量の測定値は近年注目されるサルコペニアの診断基準にも用いられている。一方 BIA 法では筋肉量の評価以外にも ECW(extracellular water)/TBW(total body water)比として、浮腫の程度を評価することができる。慢性肝疾患では水分を貯留する傾向があるが、ECW/TBW 比の臨床的意義を検討した研究は少ない。本研究では慢性肝疾患での ECW/TBW 比と肝線維化 (病理学的線維化・生化学的線維化マーカー) および栄養状態 (筋肉量・サルコペニア) との関連を検討し、さらに ECW/TBW 比と肝硬変の予後との関連についても検討した。</p> <p>2006 年 2 月から 2012 年 6 月までに当院で肝生検を施行し、かつ栄養士による身体計測評価と BIA 法による体組成分析を受けた慢性肝疾患患者 552 人を対象とした。また、同一コホート内での組織学的肝硬変患者 209 人において、ECW/TBW 比による浮腫の程度と予後との関係を検討した。</p> <p>ECW/TBW 比は、アルブミン値および PT%値と負の相関を認め、線維化マーカーの FIB-4 index および AST-to-platelet count ratio (APRI) と正の相関を認めた。ECW/TBW 比は線維化が進むにつれて増加し、F2-F3 群間と F3-F4 群間に有意差を認め、肝線維化の進行とともに肝硬変に至る前から水分貯留が始まると考えられた。栄養指標との関連については、ECW/TBW 比は体脂肪の指標である %TSF(triceps skinfold thickness) とは相関せず、筋肉量の指標である %AMC(arm muscle circumference) および %AMA(arm muscle area) と負の相関を認めた。同様にサルコペニアを有する症例では、ECW/TBW 比が有意に高値で浮腫が強く認められた。また肝硬変において、浮腫の増悪は予後の悪化と関連した。</p> <p>本研究から ECW/TBW 比は慢性肝疾患における栄養状態や病期の進行などを反映し、肝硬変の予後と関連する新たな指標と考えられた。本研究の成果は慢性肝疾患の病態を把握する上で臨床的に重要な知見であり、学位論文に値すると判断した。</p>	